

若者を戦場に送る「戦争法案」は廃案しかない



憲法9条を壊し日本を「海外で戦争する国」に変える「戦争法案」は、若者を戦場に送る戦後最悪の法案です。党首討論で、「ポツダム宣言」さえ「読んでいない」と答えた安倍首相に総理の資格はありません。日本共産党志位委員長の国会論戦で、法案の危険性はますます明らかになっています。

代表質問

「戦争法案に明確に反対を表明すべき」と市長に迫りましたが、市長は答弁に立たず、副市長も「反対」を表明しませんでした。党議員団は「戦争法案の撤

回を求める」意見書を提出し、今国会での成立に反対するよう他会派に同意を求めました。

高浜原発の再稼働中止を国・関電に求めよ

福井地裁が高浜原発3、4号機の再稼働中止を命じる仮処分決定を行ったことをうけて、日本共産党市会議員団は4月16日、市長に、①これまでの容認姿勢を改めて、再稼働中止の立場に立つこと、②国と関電に対し高浜原発再稼働を断念するよう強く働きかけることを申し入れました。



代表質問

「原発ゼロ」の立場に立ち、再稼働中止を国と関電に働きかけるよう改めて求めましたが、市長は、

従来の「脱原発依存」を繰り返し、「必要最低限の範囲に限るべき」と再稼働容認の姿勢を示しました。

議会三役改選は「選挙結果を反映すべき」と申し入れ

今回の市議選で18議席に前進した共産党は、自民党に3議席差と迫り、引き続き第二党です。日本共産党市会議員団は議会三役の選出にあたり、「今回の選挙結果を最大限反映させるべき」として、自民党、公明党、民主・都みらい、京都党、維新の党・無所属

の各議員団に、「第一党から議長、第二党から副議長を選出する」よう申し入れを行いました。

しかし、自民、公明、民主・都みらい、京都の各会派は、わが党を排除し第三党の公明から副議長を選出する暴挙を行いました。

定数2の関西広域連合議会議員選挙では、初めて、共産党の井坂博文議員が選出されました。

四条通の渋滞問題
車の流入規制こそ急げ
歩道拡幅工事の影響で、4月から連休にかけて、市バス運転手が「歩いた方が早い」とアナウンスするほど、深刻な交通渋滞が発生。車の流入規制対策が不十分のまま、拙速に工事を進めたことが原因と指摘し、市の認識をたじました。
市長は、「想定を超えた渋滞」とおわびしたものの、「平時に戻っている」と甘い認識。「車の流入規制こそ急げ」と強く求めています。



敬老乗車証
改悪を断念し、拡充を
京都市は、敬老乗車証制度を改悪し、1回乗るごとに100円程度の負担を求める制度を検討しています。しかし、世論と運動の中で、来年9月までは現行制度を改変しないことを明らかにしています。
市民負担増の検討はキツパリやめ、地下鉄で近鉄向島駅まで行く場合でも敬老乗車証が使えるよう改善を求めました。
理事者は、「私鉄を対象とすることは多額の経費を要し困難」とし、「新制度の具体化は、十分に時間をかけて検討する」と強弁しました。

戦争法案阻止・暴走ストップ 市民のくらしに応援の市政に転換を